



〒915-0823
福井県越前市本町10-2
親縁山 大寶寺
TEL/FAX (0778) 22-1682

御忌会のご案内

雪こそ少ないものの寒い日が続く今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、法然上人の忌日法要である御忌を3月2日に勤めますのでご参詣いただきますようご案内いたします。

なお、昨年は土曜日と日曜日の2日間にならわって御忌会を勤めましたが、今年は日曜日のみのお勤めとなりますのでよろしくお願ひ致します。



法然上人の御命日は一枚起請文の日付の二日後、正月二十五日です。全国の浄土宗の寺院では、2月から4月にかけて上人のご遺徳をしのんで御忌会を勤めます。御忌会では法然上人の御影を本尊の阿弥陀様の前に安置します。

第12回 水吹き地蔵祭りのご案内

恒例の水吹き地蔵のお祭りは、昨年は八百年大遠忌お待ち受け法要、ならびに大寶寺第26世晋山式のため縮小して実施しましたが、今年は例年のごとく盛大に実施したいと思います。

今年はNHK連ドラ「ちりとてちん」の草原役、桂吉弥さんの兄弟弟子、桂しん吉さんに一席お願いする予定です。改めて詳細をご連絡致しますが、あらかじめ予定表に組み入れて頂き、ぜひ、ご参詣下さい。

また、本年もお檀家さんの特技発表の場を設営する予定です。自薦他薦を問いませんので、振るってご参加下さい。

実施日	平成20年3月20日(木、祝日) 春彼岸中日
日程	午後1時より 水吹き地蔵祭り法要 午後1時20分 防火のお話 午後2時 アニメ、一休さん上映 午後2時20分 落語会 桂しん吉
場所	水吹き地蔵前、および大寶寺本堂

プロフィール

本名：濱 靖人(はま やすと)
生年月日：昭和53年7月26日
出身：奈良県大和高田市
学歴：大阪府東住吉高校
芸能文化科卒業
趣味：演劇鑑賞、鉄道旅行
特技：走ること、笛を吹くこと



大寶寺 御忌法要日程
○三月二日(日)
午前10時 開白法要
〃 11時 布教
正午 昼食
午後二時 日中法要
〃 三時 布教
午後四時頃 終了
布教師 若狭高浜浄園寺
佐野 純雄 上人

第39回 おてつぎ信行奉仕団実施予定日

恒例のおてつぎ信行奉仕団の日程が以下のように決まりました。信行奉仕は観光で訪れるのとは、また違った良さが味わえます。詳細は追って連絡致しますので、ぜひ、ご参加下さい。

日程 平成20年6月10日(火)11日(水)

親縁山大寶寺ホームページ開設予定

遅ればせながら、大寶寺のホームページを近々開設する予定です。しだれ桜が咲く頃には、ホームページで開花状況をご覧になれます。

<http://www.shinenzan.com/index.htm> 現在準備中

インド旅行記

平成20年1月24日から30日にかけて大寶寺の若が、インドへ仏跡参拝巡礼の旅に出かけました。福井を始め大阪、京都の僧侶とその家族、また一心寺にあるチルドレンズ・スクールの支援者など14名が参加しました。一行はブダガヤを始めとするお釈迦様ゆかりの遺跡、また、ガンジス河の沐浴風景、世界遺産のタージマハールを見学しました。



一心寺ではチルドレンズ・スクールの支援者の子どもたちと日本から持ち込んだ、こまやだるま落とし、また、けんだま遊びで交流をしたあと、福井泉通寺

の加藤光照上人の導師で修復を終えた仏像と光背の開眼供養に参列しました。

お釈迦様がお悟りを開かれた菩提樹の周りには、タイや韓国を始め大勢の参拝客があふれ、おそらくチベットから来たと思われる信者が五体投地で大塔の周りを参拝している様子に大変感銘を受けたとのこと。

また、さまざまな味のカレーや小麦を焼いたチャパティがとてもおいしく、有意義な旅行になったと喜んでいました。

皆さんも機会がありましたら、ぜひインドへ行かれてはいかがでしょうか。



トピックス

雪吊り・雪囲い

平成19年11月25日(日)

各地区代表16名の方々のご協力を得て、庫裏の雪囲いと境内の樹木の雪吊りをする事ができました。お忙しい中、本当にありがとうございます。

佛名会

法林寺

大寶寺

12月14日

12月15・16日

一年の心の垢をお念仏や礼拝で洗い清めるための佛名会を12月14日午後7時より法林寺にて、また、15・16の両日大寶寺にて執り行いました。

15日は一日中雷が鳴る悪天候に見舞われましたが、16日は持ち直し本堂前にて無事に浄焚会を勤める事ができました。寒い中参詣をして頂きました皆さんほんとうにありがとうございました。



大寶寺の佛名会では塔婆回向を行います。

秋廻り、月忌納め、月忌始めなど

次の日程で、年末から年始にかけて各地区のお檀家のお勤めに廻りました。11月18日樫津秋廻り、11月30日北町秋廻り、12月22日燧秋廻り、12月27日村国、八幡月忌納め。また、1月6日森行月忌始め、1月10日村国、八幡月忌始め。1月26日五郎丸お講新年会。

除夜の鐘

平成19年12月31日(月)

大晦日に恒例の除夜の鐘をつきました。積雪こそ少なかったものの、冷たい西風が吹き荒れる、あいにくの天候のため例年より参詣者は少なくなりました。



年頭挨拶

平成20年1月

元旦、早朝より大寶寺にて修正会を、また午前9時より法林寺の本堂にて年始のお勤めをしました。また、市内など近在の檀信徒の方々が年始の挨拶にお見えになりました。

2日は、各村の檀信徒の方々が、大寶寺の庫裏に一同に会して年頭のご挨拶を頂きました。

今年は、例年3日にお参り頂いた村国や北村などの檀信徒の方も2日に合流し、34名の参加を得たいへんにごやかなお年始となりました。

4日には、住職と若で手分けして、越前市、鯖江市内の返礼に廻りました。

御礼

親縁26号で、インド仏心寺を支援する会。また、里親募集をしましたところ、都合4名、合計6万円のご支援を頂くことができました。今後ともよろしくお願い致します。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

人生おいしく

「おいしい」よりも「おいしく」というのが仏教の視点である。たとえば「おいしい」食べ物といういろいろな食べ物が頭に浮かぶ。三つ星レストランのステーキ、グルメ番組に登場する究極のラーメン、食べ放題のホテルのレストランのケーキ。越前がに、山形のサクランボ、京野菜など。

一方、「おいしく」食べるというと、行為の主体、つまり、食べる人の心が問われる。たとえば、適度な量の食事や運動、食物に対する感謝の心など。

飽食の日本では、「おいしい」食べ物のため長蛇の列に加わることや、高い料金をを厭わない人は珍しくない。しかし、「おいしく」食べるための究極の調味料、すなわち空腹を心がける人はめったにいない。

だからといって、贅沢を戒め粗食を勧めるのが仏教だというわけではない。たまたま、山海の珍味や一流シェフの料理に巡り会えた時は、その幸運に感謝して存分に楽しむべし。そのとき、空腹であればなお一層味が引き立つというもの。仏教がいさめるのは、「おいしく」食べるための心がけをさておいて、いたずらに「おいしい」物をあさりまわる執着心。すなわち、行き過ぎた美食、グルメ指向なのだ。

分解して。分解して。分解して・・・

胃にたまった脂肪を分解して

胃のもたれ・不快感をよく効きます。

人生おいしく。

と、「まいうー」でおなじみのタレントを起用した胃腸薬のコマーシャルはいう。でも、いくら「人生おいしく」とアピールしても、薬で押さえた味覚や消化器官では、食べ物本来の味をとらえるには不十分。また、科学の落とし子である薬品への依存は、仏教が説く「おいしく」食べる心がけとは本質的に違う。

食べることだけではない。生きることについても同様だ。しょうやかな衣服を身をまといて、豪邸の中で美食をむさぼるセレブや勝ち組連中が、まるで幸せのお手本と、いわんばかりのテレビの伝道。快適な住まい、便利な製品。特効健康、医療薬。美肌に色白、育毛剤。エステにヘルスにヒーリング。魔法のお守り、奇跡のリング。新聞チラシはどこも狭しと幸せグッズの即売会。必ず儲かるマンション購入、株、先物。カリスマ医師、宗教家。はたまた、占い、霊能者。ちまたにあふれる幸せ助言の専門家。情報物質・サービス過多の玉石混交の世の中で、どうすれば人は迷わず幸せに生きていけるのか。

借り物の「幸せな」人生という固定概念にとらわれず、「幸せに」生きるすべを自らの心のありように求めよ、と仏教は説く。

食べても食べても満足できない人のことを、満腹餓鬼、もしくは、飽食餓鬼、グルメ餓鬼という。



合掌